

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

NITS・教職大学院等	実施機関名・連携機関名 熊本大学教職大学院 連携：熊本市教育委員会
コラボ研修プログラム	事業名：【NITS・熊本大学教職大学院コラボ研修】 家庭学習ブラッシュアッププロジェクト ～学校の授業が変わって、家での学習は変わったの？～
支援事業報告書	研修等名： 家庭学習ブラッシュアッププロジェクト 学校の授業が変わって、家での学習は変わったの？
	開催日時：令和6年1月20日 12時～ 開催場所：オンラインYouTube配信 熊本大学（熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号） 参加人数と参加者の属性： 0部 237人 1部 208人 2部 132人 3部 147人 4部 596人（2024年2月2日現在視聴人数） 保護者・学校関係者・教職大学院関係者・児童生徒他

**内容：**

- 0部 「趣旨説明」 金井義明（熊本大学教育学研究科）
- 1部 「小学5年生がやってみたよ 家庭学習は『自分の時間！』」  
小学5年生が試行錯誤しながら家庭学習に取り組んでいる様子を、児童や保護者の声と一緒に担任から紹介していただいた。中村智恵氏（熊本市立秋津小学校教諭）
- 2部 「先生たちもチームで挑戦 みんなでアイデア共有」  
校内研修において家庭学習のあり方を考え、検討し、今後の方向性を見出していった取り組みを研究主任から紹介していただいた。中村智恵氏（熊本市立秋津小学校教諭）
- 3部 「先生が語る子どもの成長 自分で『学びデザイン』」  
パネルディスカッション形式で家庭学習の改善に取り組んだ教員や管理職による意見を交流し、今求められる「家庭学習」を具現化した。熊本市立秋津小学校職員4人
- 4部 「鈴木先生の解説ポイント！『学びのイメージ』」  
未来教育デザイナーの鈴木敏恵氏に総括していただいた。鈴木敏恵氏（未来教育デザイナー）  
「家庭学習」は、児童生徒、保護者にとって切実な課題であるものの、これまでのやり方が続く状況がある。新しい家庭学習の取り組みを紹介し、実際に取り組んだ教員、児童生徒、保護者の声を聞くことで、自分事として考え、これからの取り組みにつながるものとなった。さらに、総括の中で「学びの捉えが変わっていない。日々の変化や成長もすべて児童生徒の成長である。」という指摘があり、今求められる学びのあり方を問い直すことの重要性が示された。視聴した保護者からは、「自分がやっていた家庭学習と同じイメージしかもっていなかった。時代に合った家庭学習が必要だと感じた。」という感想が聞かれた。しかし、家庭学習の新しいモデルは示されたものの、それがすぐに改善されるわけではない。今後も取り組みを進めながら、改善していく必要がある。今後も取り組みを共有しながら、家庭学習のあり方や求められる学びのあり方を一緒に模索していきたい。

**成果：**

- ・子どもたちや保護者にも分かりやすく、求められる家庭学習が見えてきたように感じました。（保護者）
- ・自分のための家庭学習に取り組んでみたい。まずは、自分で計画することから始めたい。（小学生高学年）
- ・家庭学習のことを考えることを通して、子どもたちの学びや教師の役割について考えることができた。（教職員）
- ・学校だけに任せるのではなく、家でもできることから家庭学習に取り組もうと思いました。（保護者）
- ・先生たちの生の声を聞くことができ、我が子にも家庭学習について考えてほしいと感じた。（保護者）
- ・家庭学習においても、学習者自身が理解度や興味に応じて課題を選ぶだけでなく、学習の方法や媒体を選ぶなど、個別最適化された学びの視点を取り入れたい。（教職員）

**アイデアや工夫したこと：**

- ・児童生徒と保護者にとって身近な「家庭学習」をテーマにした。より自分事として捉えられる家庭学習のあり方を考えることを通して、「新しい学び」や「新しい授業」について考え、児童生徒や保護者が「主体的・対話的で深い学び」の実現に寄与することを狙った。
- ・それぞれのパートを10分程度にまとめ、多くの人に気軽に視聴いただき、実践につながる内容を目指した。YouTubeにおいていつでも何度でも見ることができるようにした。
- ・熊本県内の全小中学校へのチラシの配布、SNS等での全国への呼びかけを充実した。オンラインということもあり、県外からの参加者も多くみられた。

<写真・図など>

**家庭学習  
ブラッシュアップ  
プロジェクト**

授業が変わった！家庭学習は？  
小学5年生がやってみたよ  
先生たちもチームで挑戦  
先生が語る子どもの成長  
鈴木先生の解説ポイント！

EdAction by Research Education Week 2023-24 みんなの夢が未来を創る

配信サムネール

すべての子供たちの可能性を引き出す  
**個別最適な学び**      **協働的な学び**

**指導の個別化** 一定の目標をすべての子供が達成することを旨とし、異なる方法等で学習を進める。  
**学習の個性化** 異なる目標に向けて、学習を進め、広げる。  
**異なる考え方が組み合わさり、よりよい学びを生み出す。**

**変わらない家庭学習・家庭学習の目的は？**

「令和の日本型学校教育」の構想を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)

0部 趣旨説明



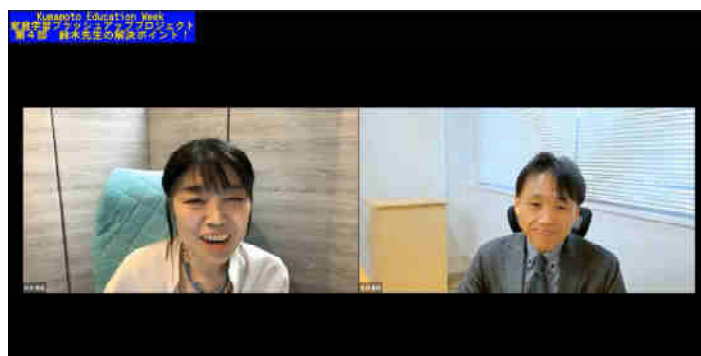
1部 小学5年生がやってみたよ



2部 先生たちもチームで挑戦



3部 先生が語る子どもの成長



4部 鈴木先生の解説ポイント！

オンライン配信のため、参加者の表情がわかる写真はありません